

令和3年10月31日

依命留学報告書—要約版—

学科名 森林総合科学科
職名 教授
氏名 橋 隆一

- 留学先 The University of British Columbia (UBC), Vancouver BC, Canada
- 研究課題 災害や開発跡地の緑化施工地における土壌の発達過程と微生物
バイオマスの役割
- 留学期間 1 Sep. 2020 – 31 Aug. 2021

○留学期間中の活動報告

世界的なコロナ禍の大混乱で、渡航に必要な許可証が届いたのも出発直前だった。通常の年とはまったく異なる中で、正直、思い通りにいかないことも多々あった。しかし、数々の制約の中にもかかわらず当地にて実に様々な方々の協力を得て、可能な限りの研究や、様々な体験をさせて頂いた。そうして振り返ってみれば、今後の教育や研究展開に繋がる素晴らしい足掛かりができたと強く実感している。

留学中のメインイベントは、バンクーバーから北緯にして5°ほど北上した、カナダのガラパゴスとも呼ばれている Haida Gwaii (ハイダ グワイ) 諸島での調査だった。目的は、Western red cedar (ベイスギ) の成長量と林床や土壌における炭素貯蔵量の増加速度に与える施肥の効果を明らかにすることだった。トーテムポールに代表される先住民ハイダ族の文化にはベイスギが欠かせないが、1800年代に宣教師によってもたらされたシカによる食害や、特に40～50年前に急激に進められた原生林伐採の影響で、成熟したベイスギが不足している。そこで12～17年生の若い林分で、施肥前後の各個体の成長量や土壌成分の分析等を進め、現在も進行中である。初春から3ヶ月に渡って同じ釜の飯を食べた Sue Grayston 教授と院生たちとの出会いもまた素晴らしいものだった。

UBCには、“Tuumest”という理念がある。ラテン語で「あなたのもの、あなた次第」といった意味になる。コロナ禍で不安な日々が続く今こそ、自分の考え方や捉え方次第で前を向いていける、と気持ちを奮い立たせてくれる言葉だと思っている。一刻も早いコロナ禍の収束を願うとともに、留学で得られた成果を今後の教育研究に全力で還元していく所存である。

以上